

ほんのしるべ

書標

2023.
7月号

2023年7月5日発行(毎月1回5日発行)
通巻535号 昭和61年7月15日第三種郵便物認可



現代の独裁は民主主義の合わせ鏡か

東島 雅昌



高校生のころから、国のかたちが大きく変わろうとするとき、それに翻弄される人々がどのように考え行動するのか、という問題に強い関心を抱いていた。たとえば、独裁制から民主制へと為政者を選ぶしくみが変わるとき、内戦で社会秩序が混乱するとき、戦争が生活を一変させるとき……。

民主主義国家であり、内戦や戦争のない戦後日本に暮らす自分にとって遠い出来事に思えたからこそその好奇心の発露だったかもしれないが、その一方、太平洋戦争時に朝鮮半島や沖縄といった大日本帝国の「周縁」に身を置き、歴史に大きく翻弄された祖父母たちのことが、頭の片隅になかったとは言えない。

そんな思いを抱きつつ大学に入学し、「政治変動」への好奇心に駆られてさまざまな本を読んだ。中国民主化の可能性、米国の対日占領政策、日本とドイツの民主化過程と戦後民主主義、途上国のグローバリゼーションと体制変動など、様々なテーマの本を手にとって、節操なく知識を仕入れた。トピックはバラバラだったが、自分の世界とは異なる国や時代の政治変動がいかなる意味をもつのか理解したい、という気持ちでは一貫していた。

修士論文のテーマとして、貿易自由化と民族間関係の相剋のなかで、民主化が如何にして阻害されるのかについて採り上げたとき、事例に挙げた中央アジアのカザフスタンに興味を深め、それを期に独裁制の研究をはじめた。

拙著『民主主義を装う権威主義——世界化する選挙独裁とその論理』の着想を得たのは、二〇〇八年一二月に中央アジアのカザフスタンとキルギス共和国を訪れ、現地調査をはじめたときのことだ。ソヴィエト連邦の解体という二〇世紀最大とも言うべき大きな政治変動を経験し、一九九一年に国家として独立するに至った両国は、多くの共通点を持っていた。

ソ連構成共和国であった過去、一九九〇年代の経済破綻と急進的な経済改革、多数のロシア系住民を含む多民族社会、よく似た大統領制と選挙制度、そして地方有力者と中央政府のあいだの政治力学などを共有する両国は、ソ連解体で産み落とされた「双子」のようであった。さらに、カザフスタンのナザルバエフ大統領とキルギス共和国のアカエフ大統領は、独立後の数年間民主化に意欲的に取り組みながら、ほぼ同時期に独裁化への道を歩み、大統領への権力集中が進んだ点もそっくりであった。

しかし、無視できない違いもあった。現地調査中にタクシーで、カフェで、レストランで市井の人々の話に耳を傾ける機会があった。カザフスタンの人々は政治指導者に好意的な意見を述べることが多かったのに対し、キルギス共和国の人々は冷淡で批判的な考えを語る人が多かった。また、よく似た権威主義体制でありながら、かたや二〇〇〇年代のナザルバエフ体制では露骨な選挙操作が減少したにも拘らず選挙に圧勝して体制は堅固化し、対照的に、アカエフ体制は選挙操作をつうじた政権維持に失敗し、「チューリップ革命」と呼ばれる二〇〇五年の反政府運動により体制が瓦解した。

国民の意思が尊重されない独裁体制においても、人々の支持を固めるのが重要になることもあるのではない。独裁制の権力の根源が暴力や不正にないとするれば、それは一体、何に由来するのか……。

本書は、この謎を解明すべく、市民の「自発的支持」を集めるために独裁者たちが用いる経済分配の能力に着目している。独裁者たちが組織的なバラマキ政策をおこない、経済的成果を人々に広く享受させることで、自らが有能で慈悲深い指導者であることを広く知らしめ、暴力や不正を慎むことで体制の基盤を固める。そして、物質的恩恵の力を借りて民主主義者を装いそこなった権威主義者たちは、たとえ独裁制といえども大衆の力によって罰せられる。人権保護と公正な選挙のための国際監視が強まっている現代世界は、独裁者たちにとつてまことに統治しづらい環境をもたらしている、と言うこともできよう。

『民主主義を装う権威主義』は、中央アジア二カ国の比較事例研究と戦後世界に存在した独裁制を射程としたデータ分析をつうじて、民主主義とは異なる国々の選挙と統治のあり方に光を当てている。しかし同時に、「進化」する現代独裁制のあり方は、法の許す範囲であらゆる手を尽くして選挙に勝とうとする民主主義下の政治家たちの姿とも、重なるところがある。

近年「権威主義対民主主義」という対立の図式がクローズアップされているが、両者は実は私たちが思っているよりも近似した存在なのかもしれない。拙著は、自分の生まれ育った国と異なる世界を理解したいという筆者の好奇心から生まれたが、「異なる世界」の合わせ鏡として「私たちの世界」があるのだということも、示唆しているように思われてならない。



『民主主義を装う権威主義』

——世界化する選挙独裁とその論理』

千倉書房・6,160円